

カリタス女子中学校 新3科型入学試験

二〇一七年二月二日 実施

# 読解・論述問題

(五〇分)

\*答えはすべて解答用紙に記入すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。※のついた言葉には、文章の最後に注をつけてあります。

「自分らしさ」と聞くと、僕はすぐに「やさしさ」とか「思いやり」とか「決断力」とかいった、人の性格に関するものを思い浮かべてしまいます。でも、ある人から、「自分らしさってさ、結局、何を着て、何をもち、何を食べ、どこに住み、誰と何の話をするかってことじゃないの」と言われ、なるほど、具体的にはそういうことになるかと気づかされました。

「○○さんらしさ」なら、やさしい人だとか思いやりのある人だなど、抽象的なイメージで描いても差しさわりはありませんが、「自分らしさ」になるとそうはいきません。その場その場で、自分自身がしたいこと、するべきことを決めていくことだからです。

例えば、大学に進学するかしないかとか、昼ごはんはなに弁当をつかっていくか学食ですますかとか、テスト前で部活のない日に友だちと遊ぶか帰って勉強するかといった具合にです。

「やさしい」とか「決断力にあふれている」などという、抽象的な自己イメージは、何の役にも立ちません。

そして、話が具体的になってくればくるほど、現代社会ではお金の問題が絡んできます。「何を着て、何をもち、何を食べ、どこに住み」なんて、ほとんどお金の話と言っていいくらいです。「誰と何の話をするか」だけが、唯一お金と関係なさそうなことでしょうか。

高校生の会話なんか聞いていると、「友だちとの交際費が半端じゃないので困ってる」なんて言っている場合もありますから、友だち付き合いにもお金がかかることが多くなっているかもしれません。

ちょっと気になったので調べてみました。「子どもの暮らしとお金に関する調査（第二回 平成二二年・金融広報中央委員会）」の調査結果によると、中学生・高校生ともに、小遣いの内訳で「友だちとの外食・軽食代」は二位に入っています。その他に、中学生では「友だちへのプレゼント」が三位、高校生では「休日に遊びに行く交通費」が三位になっていて、交際費が大きいことがわかります。

本当に今の世の中、お金がないとできないことばかりです。

3、「自分らしく過ごしたくても、お金がないからできない」と思っている人は多いかもしれません。あなたはどうか。お金があったら、今よりもっと自分らしく暮らせると思いませんか。

ちなみに、先ほどの調査で、「お金をたくさん貯めたい」という問いに対して、「そう思う」と答えた中学生は八九・一パーセント、「そう思わない」は四・七パーセント、高校生では「そう思う」は九二・三パーセント、「そう思わない」は三・三パーセントでした。お金を貯める目的についての調査はなされていなかったのでわかりませんが、多くの人がある程度お金を持っていたいと考えていることがわかります。が、

一方、「お金持ちはかっこいい」に対し、「そう思う」と答えた中学生は一七・三パーセント、「そう思わない」は六四・五パーセント、高校生では「そう思う」二二・七パーセント、「そう思わない」は六〇・一パーセントでした。お金はある程度持っていたいけれど、必要以上に欲しいわけではないということでしょうか。

僕の生徒たちも、「もっと小遣いが欲しい」とか、「お金があつたらいつでもコンサートに行けるのに」とか、「来月はバイトをもっと入れていっぱい稼ぐねん」などなど、しょっちゅうお金の話をしています。でも、彼らも案外、使いきれないほど欲しいなんて考えてはいないのかもしれないね。

さて、それなら、お金を十分に持つていれば、「自分らしく」生きていけるのでしょうか。これまでいろんな人の話を直接・間接に聞いてきましたが、「お金があるから幸せに暮らせる」とは限らないようです。欲しいモノをすべて手に入れても、やりたいことがすべてできたとしても、どうも違うようです。それはおそらく、「自分らしさ」はお金をかければ手に入れられるものではなく、自分の「チョイス」に「満足」できたときに得られる「感覚」だからなのだと思います。

「自分らしく暮らしている」と感じられるということは、自分の生き方に「自信」が持てているということです。それは、ファッションでも食べ物でも遊びでも、自分が選んだものに「納得」できているということです。それは、とても楽しい充実した人生だと言えるでしょう。

とはいえ、みなさんの多くは、まだおとなの庇護のもとで生活していたり、もし自立していたとしても、自由に使えるお金も少なく、日々の生活をやりくりするのが精一杯ということもあるでしょう。

4

それは誇れることですし、その経験はきっと将来の財産になります。

お金があつても、最善のチョイスができない人も多いですし、お金がなくてもできる「人生の達人」のような人もいます。「自分らしさ」を決めるのは、些細なことからそうではない大きなものまで、毎日の生活の中で行う絶え間ない「選択」です。それ以外の何物でもありません。

そう考えると、今夜、誰と何を食べるかということや、その人とどんな会話をするのかということも、とても大切なことなのだとわかります。

でも、今の世の中はモノや情報があふれかえり、ものすごいスピードで変化し続けています。そんな中で、一つひとつのモノやコトを、

「自信を持って」選択してゆくのは、実際にはとても難しいことでしょう。なぜなら、自信を持って選択するには、判断基準となる「価値観」<sup>\*</sup>が、自分の中にしっかりと定まっている必要があるからです。〈中略〉

そして、その「価値観」はというと、社会で生活していく中で「徐々に」築いていくもの、獲得してゆくものなんですね。基準とすべき社会そのものが、猛烈なスピードで変化し続けているわけですから、「価値観」がなかなか定まらないのも無理ありません。

〔南野忠晴著『シアワセなお金の使い方——新しい家庭科勉強法2』（岩波ジュニア新書）より。一部改変〕

〔語注〕

- ※ 抽象……………一つ一つのちがったものに共通するものをぬき出して、ある一つの考えをつくりあげること。
- ※ 学食……………「学生食堂」の略で、学校内にある食堂のこと。
- ※ 部活……………「部活動」の略で、学校で放課後に行うクラブ活動のこと。
- ※ リアル……………現実的であること。
- ※ 庇護……………かばって守ること。
- ※ 些細……………わずかな、取るに足りないこと。
- ※ 価値観……………何がよいか、何が大切であるかについての、その人なりの考え方。





